164
974

容易速成
二錢七厘

輕便早印刷法

本書ハ福嶋縣某學校々長鈴木秀顯氏の發明に係ハる者にして近來坊間に在ふれたる蒟蒻版及其他の製法と異なり婦女子小兒に於ても容易に之を製し印刷し得るのみあらず其原料僅々二錢七厘前後にて速成使用に供し其需用ハ諸官省、役場、學校、銀行、會社、商店其他一般の報告等にハ至便の者なり。著者ハ素是を射利的に出版する者に非す然共一度此便法世に傳るや各地より來訪に書狀に日々續々其傳習を請るゝも今ハ一々應答筆勞に堪す。弊舖に其原稿を寄らる依て直に之を試むるに果して其成功を見るを以て則ち印刷に附し廣く江湖に頒たんとす。諸君請ふ僅々の一小冊子と雖實際に是を試みられん事を◉附言弊店ハ書籍御註文ある顧客にハ本書一萬部(一名壹部)無代を以て呈上可仕候

東京　誠之堂

容易速成二錢七厘

輕便早印刷法

目次

◎第一章　緒言　一丁
◎第二章　寒天版と蒟蒻版との比較　四丁
◎第三章　寒天版使用者の準備　六丁
◎第四章　寒天版の製法　一〇丁
◎第五章　寒天版印刷法　一六丁
◎附錄　寒天版を用ゐずして早印刷を爲し得る極めて簡便ふる方法　一八丁

容易速成二錢七厘

輕便早印刷法

目次

◎第一章 緒言 一丁
◎第二章 [illegible] 四丁
◎第三章 [illegible] 六丁
◎第四章 [illegible] 一〇丁
◎第五章 [illegible] 一六丁
◎附錄 [illegible] 一八丁

特46
863

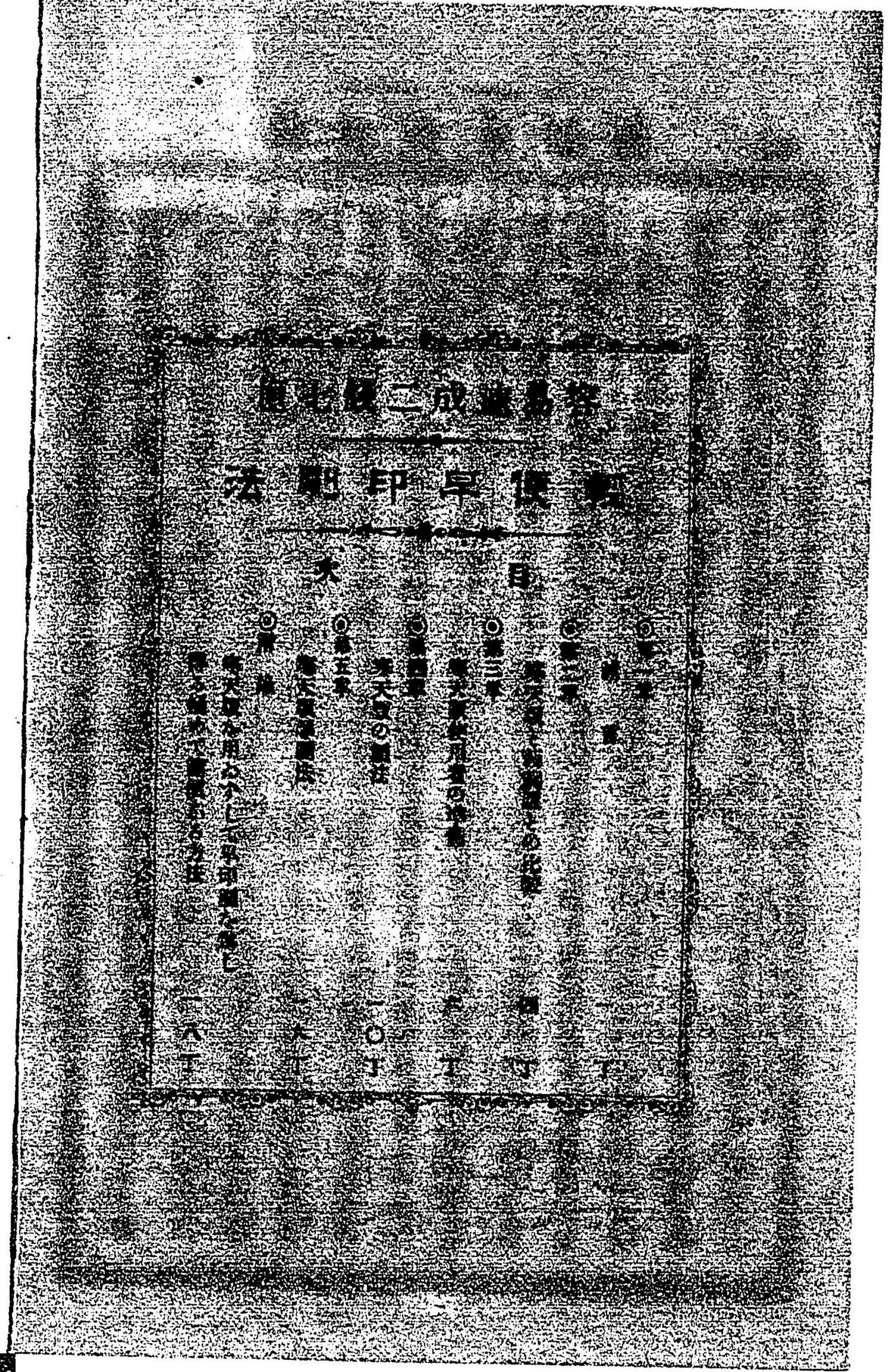
容易速成
貳錢七厘

輕便早印刷法

磐城 鈴木東奥居士著

◎第一章 緒言

余ハ。初より。此小冊子を、世に公にするの念慮ハ。毫もあらざりき。故に。此印刷法は對し。教示を乞ひ。若くハ、質問し來るものあれば。余ハ。一々詳細綿密に。其方法を、手記して。以て。之を、明示したりしなり。然れども。斯の如きハ。僅かに近郡に止まり。我が福島縣内と雖、遠隔の地方に至りてハ。此便法あるを知るもの。實に。皆無の有樣にして。早印刷を爲さんと欲するものハ。何時も。彼の。蒟蒻版なるものによりて。以て。其所用を弁せしものなる可し。然るに彼の福嶋なる、福嶋民報は。其第三百二十一號に於て。「輕便印刷法の發明」と題し。實に左の



如く報したりさ。

宇多郡八幡學校長鈴木秀顯氏ハ。去る二十五年中。極めて簡易なる、印刷法を。發明せり。今其發明の由來を聞くよ。氏ハ。嘗て、中村、山上、八幡、磯部等各校の、職員中。學術研究よ、熱心なる者、十數名と謀ア。麗澤學會と、稱するものを起し。以て其會長と爲り。機關雜誌を印刷發行する　計畫を爲し。種々工夫の末。遂よ。通常の食用よ、供する「ガンテン」のみよて。早印刷をなすことを。發明せるなりと、云ふ。今此法よ依れば。「ガンテン」三四本を、用ひて足れるが故よ。僅々、三錢内外の費用よて、充分なアとす。故よ。從來の、蒟蒻版を用ひ。一回、四五拾錢を、費したるよ、比すれば。輕便よして且つ大益あるを以て。氏ハ。初め。これを、八幡村役場員、及び郡内各學校長よ、傳習せしかば。今ハ。行方、宇多両郡　役場學校ハ勿論、其他よ於て。皆く行ハれ。大よ。利便を。與ふることふいなり、氏ハ。尙は、廣く世よ傳へんことを。冀ひ居るとのことな

れば。郵券、二錢を、封入して。照會せよ。何人よても。明細なる方法書を。贈ると云ふ。』云々

此事の。新聞紙上よ。記載さをてより。縣下ハ勿論。其他の人々より。傳習を。請ふの書狀。陸續として、絶ゑず。余は。此等の人よ對し。丁寧よ。其方法を記した、返書を送り。或ハ口から。之れを敎示し。以て。其請求者をして。成る可く滿足せしむるの方法を。執りたりと雖も。余ハ。一家の主人よして。公務の傍よハ。家政を統理するの、地位よ立ち。一個の書生としてハ。寸分の隙を得るも。用ひて。以て。研學の資よ。供せざる可らず。是を以て。余が一身ハ。公私繁劇の仕事中よ。埋沒せられつゝ在るのみならず。當時ハ。自家研學の、課業の爲めよ。驅逐せられ。殆んど、忙殺せられんとす。此際よ當り。此等、無限の請求者よ、對し。一々。明細の敎示を。與ふることハ。余の耐ふる所よ、あらざるなり。且つや。一小便法と雖も。之を世に廣布して。以て。此法の、傳習を望むものよ。需めに、應し。

且つ。未だ此便法あるを。知らざるの人士よ。願かつことよせば。多少の公益を。爲す可きことゝ信じ。茲に。此方法を記述して。以て上梓することゝいなしね。若し夫れ。此書の記する所よ依りて。此便法を試み。尙は。其不明瞭の點あらば。請ふ。之を著者に質せ。

◉第二章

寒天板と蒟蒻版との比較

余の。これまて。早印刷を、爲すよ、當りてや。何時も。蒟蒻版を製して。以て其用を弁じたりき。然れ共。其之を製するや。當地ハ。原料の高價なるが故よ。毎回、四五拾錢の金を費し。時よハ。收支相償はざることありて。常よ之を遺憾とし。何とか改良を加へ。以て之を廉價よ製せんことを。工夫勘考せしもの久しく。其間數度の試驗を爲せしも。遂よ。好成績を見ず。依て方を換へ。專ら力を。寒天よて印

刷を爲し得ることよ。盡したるよ。茲よ始めて。蒟蒻版よ優れる。完全なる早印刷法を。發明するに至れり。今寒天版と。蒟蒻版との優劣を。比較せんよ。

一、蒟蒻版は。一回の原料。四十錢乃至五十錢を要するものとせば。寒天版ハ。二錢七厘乃至三錢五厘あれば。大丈夫なり。

二、蒟蒻版を製するよハ。余程の熟練を要すとも。寒天版ハ。熟練も何も要せず。婦女子、或は七八歳の小兒と雖も。之を製し得るなり。

三、蒟蒻版は。印刷の際。紙よ粘り着くの。不都合あれども。寒天版ハ。毫も粘り附くことなし。

四、蒟蒻版は。原稿文字を拭ひ取る際。最も丁寧よあし。且つ最も注意を要すれども。寒天板は。左程の注意と。丁寧とを要せず。

五、蒟蒻版を、製するよハ。膠を、水よ溶解するとか。温火を加へて。之を攪拌するとか。又ハ。「リスリン」を混合するとか。色々、面倒のことあれども。寒天

版は。食用の寒天のみを、用ふるが故に。個機の手數を。省き得るなり。

六、蒟醤版を、製するよは。膠と「デラチン」又は「リスタン」との配合に。一定の割合ありて。此割合を、過ぎるときは。失敗を來し勝なるも。寒天版は。寒天一二本の、過不及あるも。敢て、失敗を來すものよあらず。其寒天と、水との配合上には。嚴然たる割合あしと言ふも。不可なきが如し。

七、寒天版は。此の如き。至りて便利よして。廉價に製し得るものなれば。之を煮返す際よ於ても。一層都合好し。

八、蒟醤版上の文字を。拭ひ落すよは。微温湯を要すれども。寒天版には。微温湯を要せず。通常の水にて可なり。

◉第三章

寒天版使用者の準備

寒天板を。使用するものゝ。常に。左の物品を。用意し置くを可し。

一、寒天版を製する所の箱

其大小ゝ。印刷する所の紙の大小によらざる可らず。而して其紙の大さよりゝ。長さ廣さとも。少く大なるを要す。假令ば。半紙に摺り立てんにゝ。半紙の大さより。縱にゝ一二寸長くし。横にゝ三四寸も廣くせば。好都合なる可し。而して。其内面にゝ。漆を塗りて、滑かおらしむるをば。更に上等ありとす。是れ此箱内に。寒天を放冷したる後。其寒天を。上下に反覆するを以て。其際。滑脱ならしめんが爲なり。

二、板

これゝ。寒天を、上下に反覆する際。用ふるものなり。其大さゝ。箱の中に入りて。四方一二分位隙さ居る樣に。拵へるなり。若し。四方に隙なく。切張りに拵へる時ゝ。一旦水に濕ひて、膨脹すれゝ。大さ增りて。又箱の中に入らず。何共仕樣なきことあをばなり。能く能く注意するを要す。

三、海綿及び小桶

此二品は。寒天版上の文字を。拭ひ落す時。用ふるものなり。尤も。海綿ハ。極く軟かなるものと。少く剛さものと。二重に用意し置き。寒天固く出來たるときハ。剛き海綿を用ひ。寒天軟かきときハ。軟かなる海綿を用ふるを良とす。又小桶の代りに。金盥あり何なり。水さへ入を置かるゝものなれば。凡て用ひて可あり。海綿ハ一個に付。拾錢内外にて買ひ得べし。

四、早印刷用黒汁

此れは。賣物に在るなり。茜蓊版に用ふるものなれば。東京なる、丸善商社又ハ大倉商店に注文す可し一瓶の價七八錢より廿錢位にて。買ひ得らるべし又此墨汁を製せんと欲せば紫粉四匁に凡そ廿七匁の清淨ある濁を注きて之れを溶解せしめ然る後「アルコール」と「リスリン」各一匕（小なる匕とす）を混じ又之れに五六滴の石炭酸を加へ箸の如きものにて能く之を攪拌すると

きハ紫色の墨汁を製し得るなり若し他の色の墨汁を製せんとするときハ紫粉に代ふるに他の色粉を以てすべし又墨汁永く空氣に觸るゝときハ凝固するものなれば之れに「アルコール」數滴を加へ攪拌して用ふるをよしとす

五、原稿紙及び印刷紙

原稿に用ふるにハ。西洋紙即ち「ペーパー」を用ふ可し。凡て質堅くして。表面滑かに。容易に墨汁を吸收せざる者ハ。原稿紙として可あり。印刷に用ふる紙ハ。何にても可なるども。余ハ常に藥紙を用ひ居をり。これは。價廉にして。表面と裏面とに。印刷し得ればあり。其他は。洋製書物に用ふる紙即ち通常印刷紙と稱するものを使用し在るなり。和紙と雖も。鮮明よ印刷し得可し。

六、吸紙墨

廣さ原稿紙を作るときハ。動もすれば。手若くハ腕が。書きたる文字に觸るゝを知らず識ちず。原稿紙上と手腕とを汚すものなり。今此不都合なからしめんにハ。吸

墨紙を以て。書きたる文字を蓋ひ。以て次の行を書く可し。此くするときは。原稿紙及び手腕を汚さゞるのみならず。文字に附き過ぎたる墨汁を。吸收して。程善くするの利益あり。

七、篩又ハ籃

これは。煮立てたる寒天を。箱の中に注入するとき。其不溶解分及び塵埃等を。濾過するに、用ふるものなり。

八、鍋

これは。寒天を煮るに、用ふるものなり。其大小は。機に臨んで。之れを定む可し。別に。用意し置くまでは及ばず。

◉第四章

寒天版の製法

未だ手馴れざる中は。箱の代りに。膳を用ひて。之を製するを便なりとす。是れ。箱を用ふる時は。寒天を上下に反覆する際。寒天容易に脫落せずして。大に困却することあればなり。尤も。箱の內面を。漆にて塗りたるものなるときは。此不都合なしと雖も。成る可くは。初めの程は。膳を用ふるを良しとす。一個の膳中に製するには。寒天二本にて足るも。左すれば。寒天一本の價九厘とするも。一錢八厘の原料にて。間に合ふ故に。假令失敗するも。左程の損毛といならざるなり。尙膳を用ひて。之を試みんと欲せば。左に記する通り。其手續を履行す可し。

先つ小鍋を持ち來り。之をに一膳半程の水を入れ。寒天二本を、其中に投じ。大凡一時間程煮立て。寒天の、十分に溶解したるを見計らひ。閑靜にして、冷風の來る可き所に。膳を置き。其膳の上に。笊又ハ篩を蓋ひ。其中よ。溶解したる寒天を。注入するなり。然る時は。寒天液中の塵埃。又ハ寒天の不溶解分ハ。笊又ハ篩の爲めに濾過せられて。膳中にハ。精良なる。寒天の液汁のみを以て。充たされ。暫く

の間。放冷するときは。液汁忽ち凝固して。食用寒天の如くなるなり。寒天の溶解せる液汁を。膳に移す際は。煮又は篩を。決して動すことなかれ。又之を膳の中に入る可らず。出來得るならば。他人をして。膳の上凡そ五寸の高さに支持せしめ。之をに。其液汁を靜かに注ぐを。最も良法なりとす。既に放冷して。十分に凝固したるときは。小刀の如きものにて。寒天の四方を。膳の縁より切り放し。之れに別の膳を蓋ひ。膳の縁と縁とを適合せしめて。之れを。其盤上下に反覆すべし。左すれば。寒天の在る膳は。上となり。蓋となりたる。空虛なる膳は下となりて。互ひに。其地位を代ふるあり。是に於て。其二つの膳を。平に持ちて。強く上下に振り動かすべし。此く振盪すること。三四回する時は。ポタ〳〵と音して。寒天は下なる膳に移り。寒天自身も。天地に反覆して。先きに表面たりし部分は。底となり。先きに底たりし所は。此度は表面と爲るなり。こを。寒天版の製法は。終りたるものとす

既に膳の中に。寒天版を製することに。熟練せば。茲に始めて。本式の箱に製することよ移る可し。半紙形の箱にして。深さ一寸五分位のものに。製せんには。寒天四五本にて澤山あり。水は。此箱に一ばいの寒天を得べしと思ふ程鍋に入る。堅き寒天版を製せんにハ。寒天五本。少く軟かなるものを製せんにハ。寒天四本を。其鍋中に入れて。凡そ一時間程煮立て。能く溶解したるを見て。前の如く。煮又は篩を以て。其溶けたる液汁を。箱の中に濾過す可し。而して。之を靜所に放冷し。凝固したるときハ。其四邊を箱の縁より切り離し。之に。豫ねて用意し置きたる板を蓋ひ。之をを天地に引き反して。蓋の方を下にし。両手に確と取り。膳に製するときの如く。之を上下に振動す可し。振動四五回するも。尚は寒天の蓋板に落ちざるときは。箱の蓋板を取り。寒天の片隅と。小刀の如きものにて。引き上げ。寒天と箱との間を。隙かし。其隙きたる所に。水を注入して。寒天と箱との間を粗碍せしめ。然る後。蓋板を施し。前の如く。天地に反覆して。之を上下に搖かすときハ。

塞天ハ。忽ち蓋板の上に落ち來りて。先きに底にてあゞし所は。上となる可し。此時。箱を正しく置き。蓋板と塞天を載せたる盤。此箱の中に。靜かに入るべし。此蓋板ハ。第三章にも述べたる如く。箱よりも。少く小さく。造らされば。箱の中に入らざるものなれば。之を造るとき。能くよく注意す可きあり。既に。塞天は蓋板と共に。箱の中に入り。蓋板ハ。塞天の下と爲り居り。塞天ハ先きに底たりし部分。上とありわれべ。塞天版の製法ハ。茲に。注意す可きことあり。他なし。箱の內底面をして。創若くハ穴なからしむること。是れなり。若し之れあらんか。到底。完全の塞天版を。製することを得ざるなり塞天を要するの多少ハ。印刷す可き紙數の多少にわらずして。專ら原稿紙數の多少によりて。算定せざる可らず、何となれば。一枚の原稿にて。一枚摺り立つるも。百枚摺り立つるも。塞天版ハ。少しも耗ると云ふことなきも。其耗るハ。版上に寫りたる。原稿文字を。拭ひ落すによりて。減るものなればなり。故に。塞天の減る

ハ。其印刷する紙の多少によらずして。其布き落す度數の多少に關係するものとす左きば。塞天版を製するにハ。先つ。原稿紙何枚と云ふことを算定し。然る後。之に用ふる。塞天の多少を。定むべきなり。

余の經驗に依れば。半紙形の箱を用ふるとき。塞天三本。即ち一本九厘として。貳錢七厘分の原料を。用ひたるものにてハ。原稿紙六拾枚を。印刷し得べし。此原稿紙一枚にて。平均廿五枚つゝ。印刷するものとするも。一千五百枚の紙を。摺ることを得可し。況んや。其用ふる所の墨汁にして。精良なるものならんにハ。一枚の原稿を用ひて。三四拾枚を摺り立つるの。難からざるに於てをや。故に。大概の場合ハ。多くの塞天を。費すに及ばず。僅に。貳錢七厘內外の原料にて。間に合ふ可きなり。是れ本書の標題に。貳錢七厘の四字を。冠したる所以なり。

摺り立つ可き原稿。尙ほ餘りあるも。塞天版既に磨滅して。用ふ可らざるに至りたるときハ。再び之を煮返して用ふ可し。煮返す際にハ。決して水を多く差し加ふ可

らず。極めて少く加ふるを可とす。若し又。別に寒天を加ふるの必要あらば。相當の水を。加ふ可きものとす。又少く腐敗したる寒天版を。煮返せば。役に立つものなれども。此場合には。水を少くして。別に適度の新寒天を加ふて。煮返つ可きあり。否をば。寒天版。余り柔かに出來ることあり。

◉第五章

寒天版印刷法

摺らんと欲する所の原稿紙。既に出來上り。寒天版も。巳に整はゞ。茲に始めて。印刷に着手す可きなり。其法。先つ剛き海綿を用ひ。少く寒天の表面を摩擦して。粗雜の分子ご去り。表面少く滑澤なるに及び。更に柔かなる海綿の水を絞りて。寒天上の水氣を除却し。然る後原稿紙を下す可し。尤も。原稿紙を下す前に當り。印刷に用ふる白紙を。寒天版上に擴布し。殆んと三分時內外を經。水氣の。充分此白紙に浸潤せるを見て。之を取り去り。其跡に原稿紙を擴布すをば。一層可なり。原稿紙。既に寒天版に附着したる時ハ。指背若くハ海綿を以て。其上を靜かに摩擦し。凡そ五分時を經て。之を取り去り。而して。白紙を其上に擴布し。手早く。手背を以て其上を輕く摩擦し。直ちに之を取り去り。次の白紙に摺立つべし。斯くして。寫り方。漸く鮮明を減ずるに至らば。漸次に。白紙を原稿版上に置く時間を。長くす可し。

原稿紙を。寒天版上に張り置く時間は。三四分時より短かゝる可らず。何んとなれば。原稿の寫り方薄くして多數の白紙に。鮮明に寫すこと能ハざればなり。又此原稿紙ハ。十分以上。版上に置く可らず。此くすれば。墨汁。次第に深く寒天內に透竄して。表面の墨汁。隨ふて薄さを來し。其結果。前と同一なればなり。

早印刷法の順序ハ。何枚の原稿を摺り立つるも。皆同一の法を繰く返すあり。故に。一原稿の分。既ゟ摺立を終らば。硬き海綿を以て。柔き寒天ならば。硬き海綿を以て。

ば。柔き海綿を以て。原稿文字を拭ひ去り。前の如くして。次の原稿を。版上に寫し。以て。之を次の白紙に。摺り立つること。亦例の如くするなり。今。一回之を製し。且つ。拾二枚の原稿を作り。原稿一枚よ付。二十五枚つゝを摺るものとせば。其費用ハ。概ね左の如くにて足る可し

金二錢七厘(寒天)　金壹錢五厘(原稿紙)
金拾五錢(印刷紙藁紙を用ふ)

右の外。墨汁、箱其他の入用品ハ。一度新調すれば。永く其用を弁ずるなり

◉附錄

寒天及蒟蒻版を用ゐずして早印刷を爲し得る極めて簡便なる方法

此法は半紙の如き目の荒きものに適當の方法にして藁紙又は通常印刷紙と稱するも

のゝ如き紙目の緻密なるものには到底行はれざるものとす故に此法は紙質荒目のものに適し彼の寒天版印刷法ハ紙質緻密のものに適するの差あるものにして各一得失あるを免れざるなり

今此法の施さんとするには墨汁の透顯性最も強きを要するが故に當り前の墨汁に倘數滴の石炭酸と加ふべし其原稿紙に用ふるものは雁皮、薄葉の如きものを最好とす原稿既に出來たるときは木綿三四枚を水に浸して之を板上に敷き廣げ（三四枚を悉く重ねて）其上に倘白紙四五枚を敷きて之をも海綿にてぬらし然る後原稿紙の表面を下の方に向けて其上に置き海綿の如きものにて極めて靜かに其上を叩き原稿紙の能く下に着きたるを見て摺らんと欲する紙と（濕ほしたる海綿を用ふ）を以て原稿文字の上を叩くときは鮮明に文字寫るべし之を剝ぎ取りて又次に白紙を原稿紙の上に載せ之を海綿にて上より叩き此の如くして一枚つゝ何度にも摺り立つるものなり一枚の原稿にて三四十枚を摺り得るなり

容易速成
貳錢七厘　輕便早印刷法　終

郵便摘要

書狀

目方二匁迄　二錢
同　四匁迄　四錢
同　六匁迄　六錢
以上の割合を以て目方二匁迄を增す毎に稅金貳錢宛增加す

端書

並端書　一錢
往復端書　二錢

書籍、帳簿、各種印刷物、寫眞、書畫、繪圖、營業の見本及雛形農產物種子、目方卅匁迄　二錢
同　六十匁迄　四錢
以上の割合を以て卅匁迄を增す毎に稅金貳錢宛增加す
但書籍類ハ一束の目方三百匁迄見本及雛形ハ八百匁迄に限る

新聞紙及雜誌

毎月一回以上時期を定めて發行するもの一號一個にて差出すものハ
目方十六匁迄五厘
同卅二匁迄　一錢
以上の割合を以て目方十六匁迄を增す毎に稅金五厘を增加す
但一個の目方三百匁を過くべからす
二號又ハ二個以上を一束にして差出すものハ
目方十六匁迄一錢
同卅二匁迄　二錢
以上の割合を以て目方十六匁迄を增す毎に稅金一錢宛增加但一束の目方前に同し

書留手數料

郵便物一個に付　六錢
右何程の郵便物にても稅金の外に納むるものとす

別配達料

東京、京都、大坂ハ　十錢
右の外郵便局ある地　六錢
郵便局なき地ハ路程十八丁迄　六錢
同卅六丁迄十二錢
以上の割合を以て路程十八丁迄を增す毎に別配達料六錢宛增加す

貯金利子

千圓迄年四分二厘
千圓以上　年三分

郵便小爲替料

金三圓迄　三錢

郵便並爲替料

金五圓迄　四錢
金十圓迄　六錢
金廿圓迄　十錢
金卅圓迄　十五錢

郵便電信爲替料

金五圓迄　廿八錢
金十圓迄　卅錢
金廿圓迄　卅五錢
金卅圓迄　四十錢
外に電信料を要せす

都て郵便物ハ大さ曲尺にて長さ一尺二寸巾八寸厚さ五寸を限りとす

◉東京より各地小包取扱局に至る里程表

國名	距離	取扱局名
武藏	二十里マテ	千住 王子 中野 品川 浦和 大宮 熊谷 小松川 八王子 神奈川 横濱 深谷 所澤 桶川 板橋 府中 小平 川越 上尾 赤羽 鴻巣 川崎 保土ヶ谷 越ヶ谷 幸手 杉戸 粕壁 行田 本庄 大宮鄕 兒玉
相摸	二十里マテ	横須賀 浦賀 藤澤 大磯 戸塚 鎌倉 平塚 國府津 小田原 湯本 宮の下 箱根
安房	四十里マテ	館山
上總	二十里マテ	木更津 東金 茂原 大多喜 勝浦
下總	二十里マテ	千葉 佐倉 古川 市川 船橋 取手 成田 木下 水海道 結城 銚子
常陸	二十里マテ	土浦 水戸 下舘 石岡 宍戸 太田 湊 磯濱
上野	四十里マテ	前橋 高崎 伊勢崎 桐生 伊香保 富岡 新町 藤岡 安中 磯部 横川 沼田 中之條 澁川 舘林 草津
	六十里マテ	小山
	二十里マテ	

下野	盤城	岩代	陸前	陸中	陸奥	羽前	羽後	渡嶋
四十里マテ	六八十里マテ	八十里マテ	八百十里マテ	二百五十里マテ	二百里マテ	八百十里マテ	二百五十里マテ	二百五十里マテ

下野	盤城	岩代	陸前	陸中	陸奥	羽前	羽後	渡嶋
宇都宮 大田原 鹿沼 日光 栃木 佐野 足利 矢板 氏家	白河 矢吹 平 棚倉	須賀川 郡山 本宮	大河原 仙臺 岩沼 塩竈 石巻 増田 松嶋 小牛田 古川	盛岡 一關 花巻 黒澤尻 前澤 郡山 沼宮内 水澤 遠野	青森 弘前 八戸 小湊 福岡 三戸 野邊地 浪岡 黒石	米澤 山形 上の山 塞河江 宮内 小出 高畠 楯岡 赤湯 天童 小松	秋田 酒田 横手 大曲 土崎湊 増田 湯澤 六鄉	函館 福山 江差 森
今市 石橋 喜連川 黒磯 眞岡 烏山 祖母ケ井 足尾	白石 三春 角田 中村	福嶋 二本松 桑折 若松 猪苗代 川俣 梁川 保原 掛田	秋田 酒田 能代 大館	花輪 宮古	田名部 五所原河 鰺ケ澤	新庄 鶴岡 狩川 藤嶋		
黒羽	喜多方	飯阪	涌谷 若柳 佐沼 登米 氣仙沼					

膽振	石狩	後志	天鹽	釧路	根室	伊豆	駿河	遠江	甲斐	三河	尾張
二百五十里マテ	三百里マテ	三百里マテ	三百里マテ	三百里外	三百里外	四十六里マテ	四六十里マテ	六八十里マテ	二十里マテ	八十里マテ	百五十里マテ

膽振	石狩	後志	天鹽	釧路	根室	伊豆	駿河	遠江	甲斐	三河	尾張
室蘭湊 西紋鞜	札幌 岩見澤 市來知 瀧川 月形	小樽 寿都	増毛	釧路 標茶 太田 厚岸	根室	熱海 三嶋 大仁	下田				
苫小牧							沼津 吉原 御殿場	金谷	上野原	豊橋	名古屋 熱田
							静岡 清水 藤枝 興津 岩淵 江尻	掛川 見附 濱松 中泉 森町 二俣	甲府 勝沼 猿橋 石和 日下部 谷村 吉田	岡崎 西尾 一色	一宮 津島 半田 前ケ須 龜崎 瀨戸 批把島

美濃	飛騨	信濃	越後		佐渡	越中	加賀	能登	越前	若狹
百五十里マテ	百	四十里マテ	六十里マテ	八十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ
金山	高山	輕井澤	十日町	高田	泊町	魚津	金澤	七尾	福井	小濱
岐阜	古川	長野	直江津	見附	伏木	小杉	小松	羽咋	敦賀	三方
大垣	船津	松本	今町	新潟	富山	出町	大聖寺	輪嶋	武生	高濱
笠松	上田	飯田	村松	新發田	高岡	井波	津幡	飯田	三國	
竹ヶ鼻	小諸	伊那	柏崎	村上	八尾	滑川	松任	穴水	丸岡	
關	岩村田	妻籠	三條	北蒲原郡	滑川	今石動	寺井		鯖江	
上有知	屋代	福島	長岡	糸魚川	東岩瀨		山中		大野	
八幡	鹽尻		新井	加茂					勝山	
	上諏訪		出雲崎	燕					粟田部	
			小千谷							

伊勢	伊賀	志摩	近江	山城	大和	河内	和泉	攝津	紀伊	淡路	阿波
百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	百五十里マテ	二百里マテ	二百五十里マテ
津	四日市	松坂	山田	久居	龜山	東富田					
桑名	關										
上野	柘植	名張									
鳥羽											
大津	長濱	彥根	八幡	水口	草津						
今津	木ノ本										
京都	伏見	宇治									
奈良	郡山	高田	櫻井	五條							
八尾	柏原										
富田林											
界											
岸和田											
大坂	高槻	尼ヶ崎	西ノ宮	伊丹	茨木						
神戸	御影	三田	有馬	池田							
尾鷲											
和歌山	日方	湯淺	御坊	南部	田邊						
洲本	志筑										
德嶋	撫養	脇町	川嶋	小松嶋	富岡						
池田											

	讃岐	伊豫	土佐	播磨	美作	備前	備中	備後	安藝	周防	長門	丹波
	二百五十里マテ	二百五十里マテ	二百五十里マテ	二百里マテ	二百里マテ	二百里マテ	二百五十里マテ	二百五十里マテ	二百五十里マテ	二百五十里マテ	三百里マテ	三百五十里マテ
長尾	高松	松山	高知	明石	津山	岡山	倉敷	笠岡	廣嶋	岩國	赤間關	龜岡
東三本松	丸龜	今治	伊野	姫路	勝山	和氣	玉嶋	高梁	尾ノ道	山口	正明市	
引田	多度津	三津濱	須崎	高砂	久世	金川	總社	井原	福山	新港	船木	園部
志度	阪出	久萬町	佐川	網干	弓削	西大寺	笠岡		三原	柳井	長府	
土庄	琴平	川之江	越知	赤穗	古町	味野			三次	德山	小月	
	觀音寺	西條	安藝	龍野						三田尻	萩	
		八幡濱	赤岡	飾磨					吳	宮市	大田	
		宇和嶋							江田嶋	小郡		
		卯ノ町							可部			
		大洲							吉田			
									竹原			

	肥前	筑後	筑前	豐後	豐前	隱岐	石見	出雲	伯耆	因幡	但馬	丹後
	三百里外	三百里外	三百里マテ外	三百里外	三百里外	二百五十里マテ	二百五十里マテ	二百五十里マテ	二百五十里マテ	二百里マテ	二百里マテ	二百里マテ
福知山	長崎	久留米	福岡	高田	中津	西郷	濱田	杵築	倉吉	鳥取	豐岡	舞鶴
篠山	佐賀	柳川	若松	大分	門司		大森	松江	米子	智頭	生野	宮津
柏原	諫早	大川	直方	日出	小倉	津和野	津田	安來	境	用ヶ瀨	和田山	峰山
	佐世保	大牟田	蘆屋	別府	赤池	益田		今市	橋津		八鹿	岩瀨
	嶋原港	瀨高	飯塚	佐賀關	行橋			木次	由良		湯嶋	久美濱
	武雄	吉井	二日市	臼杵	八屋			大東	赤崎		出石	
	伊万里	福嶋	甘木	豐岡	四日市			平田	根雨			
	唐津			日田	長洲				御來屋			
				竹田								
				森								

小包郵

第一條　小包郵便料は小包郵便物の重量及其差立郵便局より配達郵便局まての里程に從ひ別表に依り之を徵收す

第二條　郵便局市外に送達する小包郵便物には重量に從ひ別ょ左の郵便料と徵加す

小包郵便物一個重量

六百匁マテ　二錢
一貫匁まて　四錢
一貫五百匁マテ　六錢

第三條　小包郵便物の容積及ひ重量は左の制限を超過することを得す

容積 長　曲尺二尺
　　幅　曲尺二尺
　　厚　曲尺二尺

	後	向	隅	摩	馬	球
	三百里外	三百里外	三百里外	三百里外	三百里外	三百里外
平戸	熊本	高瀨	八代	宇土	小川	日奈久	佐敷	水俣
植木	三角	人吉	山鹿					
宮崎	延岡	細嶋	高鍋	高岡	都城	美々津	廣瀨	土々呂
飫肥	小林	三田井	志布志					
加治木	名瀨	鹿屋						
鹿兒嶋	出水	伊集院	向田	阿久根	宮之城			
知覽	枕崎	大口						
那覇	首里							

便摘要

第四條　重量一貫五百匁五拾圓を超過することを得す

第五條　價格登記小包郵便物の保險料は登記金額壹圓にて金七錢とし一圓以上ハ壹圓まて毎に金壹錢を加ふ

第六條　通常小包郵便物の損害に對しては重量百匁に付金拾錢の割合を以て之を賠償し其一部分の損害に對しては此制限內ょ於て其損害の多少に從ひ之を賠償す

第七條　價格登記小包郵便物の損害に對しては其登記金額まて之を賠償し其一部分の損害に對しては登記金額內に於て其損害の多少に從ひ之を賠償す

小包賃錢一覽

里程 / 重量	二百匁マテ	四百匁マテ	六百匁マテ	八百匁マテ	一貫匁マテ	一貫二百五十匁迄	一貫五百匁マテ
二十里マテ	六錢	八錢	拾錢	拾貳錢	拾四錢	拾七錢	貳拾錢
四十里マテ	七錢	拾錢	拾參錢	拾六錢	拾九錢	貳拾參錢	貳拾七錢
六十里マテ	八錢	拾貳錢	拾六錢	貳拾錢	貳拾四錢	貳拾九錢	參拾四錢
八十里マテ	九錢	拾四錢	貳拾錢	貳拾四錢	貳拾九錢	參拾六錢	四拾三錢
百里マテ	拾錢	拾六錢	貳拾四錢	貳拾八錢	參拾四錢	四拾二錢	五拾錢
百五十里マテ	拾貳錢	拾八錢	貳拾九錢	參拾錢	參拾九錢	四拾六錢	五拾八錢
二百里マテ	拾四錢	貳拾錢	參拾四錢	參拾五錢	四拾四錢	五拾貳錢	六拾四錢
二百五十里マテ	拾六錢	貳拾貳錢	參拾八錢	四拾錢	四拾九錢	五拾六錢	七拾錢
三百里マテ	拾八錢	貳拾四錢	四拾錢	四拾五錢	五拾四錢	六拾錢	七拾五錢
三百里以外	貳拾壹錢	貳拾六錢	四拾貳錢	四拾八錢	五拾八錢	六拾五錢	八拾錢

誠之堂圖書目錄

掘捨次郎 深井鑑一郎両先生校註

校訂 標註東萊博議

上中下 全三冊 既刻完成
正價一冊各三十錢 郵稅六錢宛

東萊博議は有名なる宋の呂祖謙が春秋左氏傳中に就きて治亂興亡正邪淑慝の蹟を辯じたる絶妙の史論にして其文章は韓潮蘇海の外に一機軸を出たし流麗奇警の妙文なり今般弊舖堀、深井両先生に請ひて大に增補校訂する所あり(一)標註を施し(二)訓點を正し(三)句讀を截り(四)段落を分ち(五)文法大意を說き卷を開けば少年子弟と雖も毫も了解に苦むことなくして漢文の妙を窺ふを得べし特に各公私立學校中漢文教科書及檢定試驗參考書とし採用せられたるもの多し今や全部完成す江湖諸君陸續御購讀あらんことを希ふ

深井鑑一郎先生集註

挿圖標註 史記列傳

全五冊 一冊正價各金廿錢 郵稅四錢

本書は史記の中特に列傳のみを取りて各官私立學校及其他の教科書併に參考書に供せんか爲にしたるものなり本書は從來のものと異なり頗る教育上の原理を應用し學級の程度に應じて訓點等の斟酌を施し古人の註釋を加へ精密なる地圖を挿入したる等深切至らざる所なし且價格の廉なると世人の尤も嗜讀する列傳のみを引離したるとは讀者に便益を與ふること蓋し尠からざるべし乞ふ速に一本を購讀して其價値あるを知られよ

河村北溟先生校定

◎受驗者必讀 白文正文章軌範 合本全 正價金十五錢 郵稅四錢

花輪時之輔先生講述

◎挿圖 論語講義 全二冊 正價各金卅五錢 郵稅八錢宛

河村北溟先生講述

◎論文 日本政記講義 全二冊 賣價金四十八錢 郵稅八錢

深井鑑一郎先生講述

◎論文 日本外史講義 完 賣價金廿五錢 郵稅六錢

深井鑑一郎先生講述

◎孝經講義 完 賣價金十五錢 郵稅四錢

名取弘三先生講述

◎正文章軌範講義 完 賣價金五十錢 郵稅十二錢

深井鑑一郎先生講述

◎大學講義 完 賣價金十五錢 郵稅四錢

◎十八史畧讀本 半紙本 全七冊 賣價金六十五錢 郵稅十六錢

作詩眼

堀戈洞先生編著

大形 全壹冊 正價金三十錢 郵稅六錢

〔青年、學生、軍人、詩客、旅行家、文學家、操觚家、隱遁家の必携書〕

漢詩の妙は。必らずしも。排豪跌宕。天に倚り。地を抜くの謂にあらさる也。慷慨激烈。斂を抜き地を研るの謂にあらさる也。駢辭麗句。風雲を鏤め。月露を繪くの謂にあらさる也。亦只一片措辭の巧綿として。情緒情緒を離れさるにあり世に之を排するの迷頑者ありと雖とも。此れ殆と情思の何物たるも解し得さるの徒たり。弊舘今回出版する所の作詩眼は。堀 戈洞先生の編錄に係るものにして。通篇を分て。四章となし。其詩法篇には。作詩に關する凡そ一切の法則法規を。直に其源頭より尋究し。樂府。古詩の二篇之れに次き。絶句及近體を以て。篇を終るの仕組となす。而して。毎篇に各詩各體の緣起變遷と。其作法作例に至るまて。廣く之を採摭して。細かに之れを解釋を下したり。されい。初學の人と雖とも。優に作詩の一法を了會するに難からさる也。殊に其作例即ち詩選に擧くる所の詩い。漢魏六朝の精英。唐宋元明の正聲。本邦歷代の名匠巨擘の手に成るもの。凡そ三百有八十篇を網羅し。光怪陸離。實に一幅天錦の風に颺へるか如く。燦乎として奇觀を極めたり。想ふに。此篇一出。尋常俗本を掃空し。精金美玉の市價あることは。今より世人の疑はさる所ならん諸ふ青年諸君子。陸續購讀の榮を賜へ

文科大學教授內藤耻叟先生序
松風增田于信先生校註

校訂 標註

つれ〴〵草

高等中學師範校其他官私立諸學校教科用書

第十九版 和本全二冊紙數二百卅頁
洋紙摺 正價三十錢 正價二十錢 郵稅四錢

徒然草ハ往時我國の論語と稱して世間誰しも讀み習ひたる本なれと今日ハ人々新奇の書に心移りて眞の論語と與にやゝ高閣に束ねることゝありねされと理論はさて置き文章に至りてハ實に和文の一體を備へたるものにて今日和文を講究せんとするにハ必これを以て軌範とせざるへからすさるからに此節は高閣より下して中學其他の學校にて教課の一部に充つるよ至れりされと流布の素本ハ文字ごた〳〵として甚讀みにくゝ且假名に誤あり又舊來の註本は冊數甚多くして徒に醷閱に苦しみ未一の善本あるあし近時類撰刪定の二書世よ見ゆたりといへ共一は章々を混同し一は篇々を刪除していつまも原書の面目と失へり依之弊舘此般增田先生に乞ひ從來の流布本に就て字を校し假名を訂し傍に添註し頭に標註して一讀の下に明了の功を鳩ゐ且字句に疊して文章の格法を悟らしむ實に古今無雙の善本といふへし初版發行以來非常の喝采を得て版を重ぬると既に十回益々訂正を加て完全す以て本書か如何に世に賞用せらるゝを推し玉へ近頃世間僞版よ等しき類書多し增田のつれ〴〵草と御指名を乞

西村豊先生編著

文章詩歌作法良材

紙數五百頁餘
正價金四十錢
郵税八錢

作文詩歌の書、世既に多し、然も、集て大成したること、本書の如きものあるを聞かず、況、文章には、漢文あり、和文あり、普通文あり、詩歌には、絶句あり、長律あり、短歌あり、長歌ありて、その作例を得る、物を囊に探るか如きものをや、而して其作例は、何をも絶妙にして、天地を感かし、鬼神を泣かしむべきもののみを載せたれば、その模範を取る、此書に過ぎたるものなからん、乞ふ江湖の諸彦、幸に一本を購讀して、本書の價値を知られよ、

伊藤平章先生講述
◎挿圖 徒然草講義　全二冊　賣價四十五錢　郵税十錢

畠山健先生講述
◎百人一首講義　完　賣價十五錢　郵税二錢

今泉定介先生講述
◎伊勢物語講義　完　賣價卅錢　郵税六錢

增田于信先生校註
◎校訂 標註土佐日記　完　賣價金十錢　郵税二錢

今泉定介先生校閲 上田胤比古先生校註
◎校正 標註方丈記　完　賣價金八錢　郵税二錢

今泉定介先生編述
◎和文讀本問答　完　賣價十五錢　郵税二錢

增田于信先生講述
◎新註古今和歌集講義　全二冊　正價金　郵税

◎言葉の玉の緒　半紙本七冊　賣價六十五錢　郵税十六錢

寶生九郎校 大和田建樹閲 矢田八太郎編纂 曉翠女子圖畫

謡曲訓蒙圖會

前後　定價各金卅五錢　郵税金四錢宛

右本は頭書に其謡ひの一番毎に起原濫觴より說き起し作爲仕組等より謡ひの事柄を古書歷史に參考して婦女子にもわかる樣能の圖畫を加へ下段には謡曲の全文を擧げたるおもしろき新書にして進物旅行携帶等には最も優美の書なり

正三位伯爵東久世通禧君題　従五位末松謙澄先生叙
従三位子爵福羽美静君題詞　従六位小中村清矩大人序
大教正本居豊頴大人閲　松風増田干信君編

新編紫史

和洋紙摺　壹篇（則和本二冊合）　合本全十帙（二十冊）插畫美製
實價四十五錢宛　第四篇既刻次篇續出　壹帙（二冊）金七十五錢宛
郵稅六錢宛　實價　絹表紙付上等製本二冊に付廿錢增

一名通俗源氏物語

新編紫史ハ源氏物語を通譯したるものにして空前絶後の大著或神泣鬼の妙筆なること古來既に說ありされは鎌倉時代より今日に至るまて學士文人こをが注釋を施すもの殆四十家に下らす然ども猶其讀み難く解し易からさるを以て後世の人其書を耳にして其文を目にせす是を以て京傳馬琴以上にハ小說なしと爲して徒に支那西洋の稗史に眷戀す豈悲しきわざならずや松風先生嘗て大學に在りて本邦の文學を修め文辭尤精妙を推さる今此書を譯して容易くこをを通讀するを得るの便を與へられたり文は曾て原書の意を失はす語は古雅に偏せす卑俗に陷らす坊間刊行の小說に比すれは眞に玉石の別あり抑本書の利益は意匠の絶妙のみにあらす當時の人情風俗及ひ京洛の景況宮中幷に朝紳の有樣等よく一般の世態を詳に叙したをは人をして親しく一千年前の時代を經歷せしむるの想あらしむ是他の歷史等に於ては決して見ることを得さるものの珍書たり將た讀さるを愧つへきの妙史なり

中等教育和漢文講義錄

初號より再版出來次號なし
全卅冊（完結）　定價壹冊十錢郵稅二錢
全部卅冊或價金貳圓五十錢郵稅四十四錢

和漢文を兼ねたる講義錄は本誌の外一もあることなし故に和漢文科の試驗に應せんとする者には無二の良師友なり●本誌は和漢文に關する質問に應し師友に乏しき人の便益を計れり●本誌は發行以來日尙淺しと雖とも大に世の向意に適し其印刷部數の巨多なる現今此種の講義部中殆と比すること如く讀者の便益を計り深切叮嚀を旨とする雜誌は天下またあることなし幸に一本を購ひてその價値あるを知られよ

●本講義は卅冊にて各書共卷終迄悉く講了せり

講義科目及講師

和文
- 伊勢物語　今泉　定介君
- 竹取物語　同
- 百人一首　畠山　健君
- 徒然草　伊藤　平章君
- 和文讀本問答　今泉　定介君

漢文
- 大學　深井鑑一郎君
- 論語　花輪時之輔君
- 日本外史　深井鑑一郎君
- 文章軌範　名取　弘三君
- 孝經　深井鑑一郎君
- 和漢文質疑應答　懸賞文

雙木園主人編

江戸時代戲曲小說通志

若。本邦に於ける。文學發達の最盛期を擧ぐれい。江戸時代に若くものなかるべし。和漢の文學い。さて置き。殊に戲曲と小說とに於て。最も絢爛の結果を見る。蓋。群芳の蕾を破り。百花の香を放つも。以て其の華美に喩ふるに足らざる也。況又。夜雨玉碎け。高山水落るの妙響あるものに於てを乎。近世英人動もすれば「ありさすべす」朝を擧げて。其の文學の發達を誇る。然れども。本邦江戸時代の文學い。未必らずしも。之に下らざるなり。然るに。從來の慣習として。戲曲小說といへば。婦人孩提の玩物の如く輕視し。嘗て識者の取る所とならざるべからず。要するに。戲曲と小說とい。社會の反映なり。人心の汚隆。邦家の盛衰共に。之と聯系して。相離れざるものなれば。其の源委流派の如き。苟も文學に志あるもの、知らざるべからざるものとす。今雙木園主人此に慨する所あり。近世に起れる。戲曲小說の事歷を網羅し。名けて江戸開府以來。凡二百四十餘年間の文學歷史にして。第一篇。戲久慶應にいたるまで。江戸時代戲曲小說通志といふ。上い寛永慶安より。下い文曲の部にい。浮瑠璃本。及び演劇脚本の發達を叙し。併せて其の文例を示し。第二篇。戲小說の部にい。浮世草子。洒落本。人情本。草雙紙の發達より。遂に實錄物。讀本。滑稽本の變遷沿革に及ぼし。又文例をも示せり。第三篇。傳紀の部にい。小瀨甫庵。鈴木正三。井原西鶴。近松門左衛門。竹田出雲。並木宗輔。福内鬼外。山東京傳。曲亭馬琴。式亭和本美裝（插畫）

前後四冊半紙摺

賣價二冊四十錢宛

郵稅前後十二錢

三馬。十返舍一九。爲永春水を首め。外數百名にか、る。奇行逸話を採錄し。殊に作者の肖像は勿論。浮瑠璃本。小說本の插畫凡數十種い。一々古風を摸刻して。當時の眞相を失はざらんことを務め。又年表。索引をも付載したれば。極めて人名の搜索に便あり。希くい諸君子一本を御購讀の上。近來の奇書なりと賞し賜はゞ幸榮。之に過ぎず。

特命全權公使從三位　大鳥圭介公　題
第一高等中學校教員岡本監輔先生閱幷序
佛國義德兎查理頓先生著　法學士
東京日々新聞主筆朝比奈知泉先生叙文　辨護士今泉啓三郎君譯述

一讀奮起　立志美談

一名英佛獨三貧兒傳

出版以來未た旬日ならさるに忽ち世間の好評を獲大に喝采を博したる立志美談は佛英獨三國の最極の下等社會にして極度の貧其志操堅確にして世に比なき艱難辛苦を物ともせず忍耐強勉して終に目的を達し大哲學者となり大歷史家と成大著述家となりし三名士の傳記なり人若し此書を繙けば一讀の下忽ち奮然瞿起し艱難困苦を藐視し忍耐勉強の心を發排し其志操を堅くし其思望を大にし天下の事何事ぞ成らざらんの嘆を發すへし且書中の三人は目下世界の最強國だる英佛獨の三國に生れ各其國人の氣象如何を知り得へし青年諸君及ひ身を立て國を益せんとする者い勿論英佛獨三國人の氣象を知らんとする者は必ず一讀すべき好書也其製本美にして進物土產物等に適すとには尤も恰當の良書也

洋裝美本　正價金廿五錢
稅郵金六錢
紙數三百頁石版畫數葉入

醫書類

醫家之一大寶典 全國各病院諸大家の寄贈に係はる最新治療書

河野敏人編纂

日本 大家處方新書

完

洋裝總「クロース」包「ポケット」入
用紙舶來最上 紙數五百餘頁
正價金七拾五錢 郵稅金六錢

本書は醫科大學の方符を始とし三府四十二縣一道廳の各病院長幷に諸大家の寄贈に係はる治療法及其處方と全國の醫會より發行せる雜誌中の治驗錄を拔摘編纂したる者にして其結構は內科外科皮膚眼科產科及婦人科の各科に分類し亦た各系統を逐ふて之を編列せり且つ其附錄として日本諸大家の手ゝ成せる白血病の血液檢査法、檢尿法、檢尿法、檢黴法、種痘法及ひ救急法を以てし猶ほ又た劇毒藥極量一覽表、急性中毒及解毒一覽、皮下注射用藥液表、人工浴用藥液表、灌腸用藥液表、醫科大學第一院の防腐法及坐藥製法等を記載し以て實地家の便利を計せり故に實地家及實地受驗生諸君の一大寶典たるは勿論苟も日本醫學の進步を知らんと欲するものは實に一讀せざる可らざるの要書なり

醫術開業試驗委員 侍醫醫學士 桂秀馬校閱 傳染病研究所員外助手 小池毅編次

新纂 挿圖 實用繃帶學

全一冊 正價金貳拾八錢
密圖五十有八 郵稅四錢

之は是を繃帶學に關する最嶄新の著、通式、頭部の繃帶、乳房の繃帶、上肢の繃帶、及下肢の繃帶等を詳細丁寧に說述し得て明白。所說は正確、行文は流暢、挿圖は精巧、印刷は鮮明。學生は以て演習の軌範と爲す可く、實地家は以て日常の備考に供す可し。白刃を蹈み礮丸を犯して義勇公に報せむとするもの本書を携へたらむには其自を利し他を益すると決して、診少に非ざるべし

醫科大學助手 濟生學舍講師 醫學士丸茂文良校閱 吉岡荒太纂著

簡明生理學

精圖挿入 全二卷 正價各六十五錢 郵稅六錢宛

上卷目次 緒論第一編代謝機 血液及同循環、呼吸、分泌及排泄、消化、吸收生理、

下卷目次 〔營養新陳代謝生理第二編 動物溫、筋生理第三編 末梢神經神經、中樞、五官器生理第四編 生殖及發育生理〕

本書之体裁ハ方今獨逸國に行ハるゝCompendium体とKatechismus体とを折衷したる著書が一種獨特之立案に據り主として最近之出版にかゝる「ヘルマン」、「ランドア」、及「スタイネル」三氏之生理書を基礎とし傍ら從來之諸書を參照したるハ勿論著者ガ年來斯學之研究上親しく實驗修得したる材料とを以て纂著されたり故に日進之學理ヲ網羅せる簡約にして誦記應用に簡便なる良書なりされば生理學上之疑問起るや一度之を繙くときハ疑義釋然又遺憾なかるべし殊に著者ハ血液幷ゝ神經生理に就て最も緻密に論述したれば醫學生は勿論醫師諸君に對し受驗用及病理學上之參考書として最も適當なる一新書なり而して書中原書に劣らざる精密なる圖畫を加へ就中主要之術語にハ原語を附記し且つ卷末ニ明治十七年より近年に至る醫學開業者か用意の周到なる一斑を知るに足るべし

試驗に於ける生理問題

百三十六問を附錄としたる等著

東京地方裁判所醫務囑託
警視廳第四部長警察醫長　醫學士　山根正次纂輯

實用檢毒學

全壹冊　正價金六十錢
精圖入　郵稅金四錢

毒物檢査は裁判醫學中最も重要にして且つ最も困難なるものあるは輓近**社會**の**一大問題**たる某毒殺嫌疑事件か如何に醫學社界に恐慌を與しかに見て之を知るを得べし此書は裁判醫學に有名なる山根醫學士の近業に成りドクトル、クライン氏のエレメンテ、デル、フヲーレンジツシユ、ヘミツシエンアナリーゼ、を基本とし旁ら他の成書に參・加るに自家の實驗を以てせられたるものにして尋常譯書と同日にして語るべきにあらす從來裁判醫學に關する成書の世に行はるゝもの一にして足らさるも而も大抵此の學の普汎に沙るものにして檢毒學に於て詳明精密を極めたるもの未た之れあらす醫界の一大缺點たりしなり本書一び出でゝ此欠點を補足し刀圭家の需求緊要の事項を包羅するのみならす一般醫士たるもの平素に於て坐右を離すべからざるの貴書なり

濟生學舍長　長谷川泰先生閲幷に序　河野敏人　用木正溫兩氏纂著

簡明內科學

洋裝總クロース本綴美製一頁十三行三十字詰紙數六百五十頁特別賣價金壹圓六十錢郵稅十二錢

凡ろ人に向て事物を敎ゆるや學說にのみ偏す可からす實地のみ倚すへからす二者相俟て始て全きを得るもの也然るに從來の著譯書を見るに或は學理にのみ精確に記載して實地に適せさる所あり或は實地にのみ拘戾して學理薄弱なる者あり著者此を憾とし專ら公平無私の眼光と以て獨國最近出版の內科學の原本より最も論理の精確なる最も斬新の療法を摘譯し併て日本諸大家の實驗說を加えたる者にして全篇を義解、原因、剖觀、症候、經過、鑑識、豫后、治法、等の數項に分ちて簡明に譯述し其類症鑑別及處方の如は最も綿密に記載したれば別に該書を購讀の必要なく實に至便の良書なり冀くは實地家及學生諸君一本を購て座右の良友とし熟讀玩味せられんことを

東京病院副長
醫學士　日高昂先生校閲　用木正溫先生纂著

新纂外科手術學

全壹冊大形　紙數二　正價金七十五錢
精圖五十箇　百余頁　郵稅六錢

本書は獨乙國近刊の外科書數種を涉獵し其所說の斬新精確にして最も實地上適切穩當なるものゝみを撰拔編纂せられ大手術い勿論惣て外科手術に屬する者は網羅聚載せさるとなし而して各手術の沿革、適應症、術式、後治法等繁を苅り粹を拔き極めて明晰流暢に論述し加之精圖を以て其說明を幇助せられたり故に一度之を繙くときは理解釋然坐口に實地運刀の狀を感想せしむ醫學生及ひ實地家諸君幸に一本を購ひ講習又い臨床の羅針盤となし玉はゞ裨益せらるゝ所決して鮮少ならざるへし

醫學士 桑原丘爲先生纂譯

新藥藥物全書

大形全一冊 正價金壹圓
紙數三百五十頁 郵稅八錢

抑も藥物學ハ醫學科中最も複雜浩繁なる學科にして假令一時之を暗記するも又忽にして之を遺忘するハ醫家及醫學生諸君の常に浩歎せらるゝ所なり是れ藥物學科其物の性質なるか爲めありと雖とも多くハ從來行ハるゝ所の書籍或ハ卷帙浩瀚にして記憶に便ならす或ハ意多くして文至らす爲に學者をして徒に之を解するに苦ましめ或い餘りに散漫にして實地家をして其依る所を撰ふに由なからしむる等一も完全無缺の書なし桑原學士茲に感あり醫家及學生諸君の憾を慰せんか爲め深遠緻密なる思考を以て獨乙國最近刊行の藥物書より其粹と取り其英を抜き藥物に關する全班の學說を詳論細述し殊に生理醫治の兩効用ハ最も綿密丁寧に之を說明せられたり此書たる紙數甚た多からずと雖も悉く藥物學の要點を網羅して餘蘊なし編纂其中を得緊に失せす簡に流れす詢に藥物學近時の良書なり本肆依て之を先生に請ふて上梓し醫家及醫學生諸君に頒たんと欲す冀くハ一本を購ひ醫士ハ日常之を參考に供し醫生ハ朝夕講習受驗の資と爲す可し

濟生學舍講師
醫學士 丸茂文艮校閱 河野敏人纂譯

局處解剖學

完

正價金四十五錢
郵稅四錢

附錄 脈管位置關係及筋肉起始停止一覽

局處解剖圖譜

完 着色精巧
密圖

正價金六十五錢
郵稅六錢

本書幷に圖譜は我邦解剖學者の泰斗と尊崇せられたる醫科大學助教授故今田東先生が解屍術演習の際懇篤に教授せられたる所の筆記を骨子とおし之に加ふるに獨國諸大家の解剖書及解剖圖外科書等を參酌し加之着色精圖を以て其周圍の關係を明瞭ならしめ殊に外科的上緊要なる局部解剖及動脈結紮の如きは最も細密に摸寫し卷末附するに脈管の位置關係筋肉起始停止一覽表を以てす故に苟も醫家殊に外科醫及び受驗者諸君にして之を坐右に備へなは裨益する所蓋し鮮からざる可し

濟生學舍講師
醫學士 田代義德 山田良叔校閱 傳染病研究所
員外助手 小池毅編纂

受驗者之寶典 答案書之泰斗

全二冊

正價各六十五錢
郵稅各六錢

新藥醫術後期試驗問題答案軌範

附錄 改正日本藥局方極量記臆表、及解毒藥一覽表

此書ハ讀て字の如く、醫術開業後期受驗者が試驗場裡に於て筆にすべき答案の、軌範を示せるものなり●其細目の如きハ、繁を厭ふて茲に贅せず●唯、其敘述の体裁は、在來未曾有のものたるとを一言せば即ち答案は、先之を數節よ大別し、更に數款に小別し、以て簡約明快に列記し、更に詳細なる註釋を附し、毎節毎疑各數字を寇して井然紊れず、故を以て、一讀過能く其要領を諒すべく、熟讀せば則ち更らに巨細漏すとなく之を解し得べし●實に受驗者が錦衣を故郷に飾る一臂たりとの好評、江湖に嘖々たるもの豈偶然ならむや●

醫師及法律家必讀すべき書

瑞西國大學教授　ヲッペンハイム原著
日本醫醫長　山根正次譯補

訂正再版　醫權論

全一冊　正價拾五錢　郵稅貳錢　郵券代用割一增

本書は有名なる法學博士ヲッペンハイム氏かバーセル大學に於て就職の際演說したる筆記を飜譯せるものにして主として醫師の人体を侵撃せる權理に就て立論し議論周匝痛快加るに譯文流暢平易近來の好著とす輓近人事の進歩に隨ひ醫務と法理の運瑣は益其關係を密邇す而も兩者の一大關鍵組樞たる醫師の侵体權に付て綿密の研究をあしたるい實に本著を以て破天荒とす醫師法律家は勿論關係あるものは一讀せさる可らさるの書なり初版發行忽ち賣盡し江湖の需要に應する能はさりしか今回再版に付し更に文章を訂正し体裁を整理し一層完璧の觀を呈せり江湖諸君速に購讀を乞

法醫學的　鑑定實例

醫學博士片山國嘉先生著輸　法醫學會吉山順吉編輯

卷一　訂正再版　賣價金八十錢　郵稅十錢
卷二　賣價金九十六錢　郵稅十錢
洋裝惣グロス美製　紙數各五百頁

罪なくして見る配所の月誰れか一滴の紅涙を濺かさらん其罪にあらさる者鐵窓の下に伸吟し罪ある者悔とし閑日月を送る法の乱れたる之れより甚たしきはなし其罪にあらさる者を救ひ罪ある者をして罪に服せしむるい法醫學の與りて大に力ある所にして近事相馬事件再燃の如き世人愈法醫學の必要を感したる可し今や愛に第二卷

を出し法醫學的智識を以て民刑に關する難件疑訴を鑑定し冤者縲紲を免かれ凶漢法網を脫する事能はさりし實驗中より其尤も劒切にして必要なる者百余種を擇ひ之を本書内に網羅せり人之を繙かば焔王の淨瑠璃胸内に現出し大岡越前の腦裏に再ひ生せん法官警吏醫士辯護士諸君本書を坐右に置き參考諮詢の資となさば法律愈其銳を增し野に無辜の徒なきに至らん歟

日本名家　處方會議

ポケット入　正價金卅錢　郵稅二錢

風土異なれは疾病も亦從て異なるい是自然の理なり故に泰西の處方を取りて本邦人直に應用するか如い大に誤れり然るに從來數多の處方集ありと雖とも概ね皆歐方を譯せしものにして未た曾て日本諸名家の處方集なる者を見す是實に杏林社會の一大欠典なり本書は醫科大學を基とし順天堂山龍堂病院を初其他日本諸大家か熱血を揮て按出せられし最近の處方を蒐集せし者にして尙卷末に藥物の醫治効用仌瓦の比較表及極量等を記載したるは實地家に向つていい實に有益日常欠可からさるの書也

宮中顧問官錄從四位　長與專齋先生序
中央衛生會長
東京醫會幹事　松山棟菴　先生校閱
同幹事永坂周二先生纂述

實用　眼科要領

精圖二十一　正價六十五錢
紙數二百六十頁　郵稅六錢

本書は歐米諸大家の新說を網羅纂譯し專ら記憶及實用に利せんと欲するの目的より纂者か五年の苦心を積みて組成せる新機軸の一冊子なり其の眞價は江湖看官の需用に由て定まる處なりと雖も行文簡にして意義判然圖畫鮮明にして一見了解し易きを以て醫家及學生諸君に必要なる座右の好伴侶なり請ふ一本を購て之が批評を下せ

本木津纂著

眼科類症診斷

附錄（眼科病名對照表　眼科用藥液表　最新藥處方錄）　正價金六十五錢　郵稅六錢

晩近眼科書之著述陸續として世に出づると雖とも未だ眼科診斷及鑑別法を悉く記載したるの著書に乏し又往々如此譯書あるも或は學理繁雜に傾き或は簡易にして篇中二三の鑑識を載するのみ實に完全無缺なる者曉天の殘星よりも尚乏し著者此に感ありて本書を著述する所以なり該書は獨乙國眼科大醫「ヘホッシウス」氏幷に「シュミットリンブレル」氏等の眼病書を本資とし尚現今諸大家の撰著に係る眼科學及二三の新刊書を參酌し專ら實用に適する目的なるを以て務めて繁冗を省き醫科受驗者幷に實地家をして記憶に便ならしむ尚は附錄として眼科病名比較表、眼科用藥液表、最新藥處方錄等を明瞭に記載せり故に實地上其便益なると他書の比にあらざるなり

外科
眼科　**類症鑑別**

醫學士　桑原丘爲校閲　河野敏人　西壽五郎　金子才藏共著

紙數二百餘頁　正價金五十錢　郵稅四錢

晩今醫書著譯の世に行はるゝもの汗牛充棟も曾成ずと雖も特り外科眼科類症鑑別を說くを求むるに寥々として晨星の如し本科に從事する者之を憾む若し夫れ一朝診斷を誤らんか患者の不幸醫師の不名譽果して如何是鑑別の尤も大必要にして一日も欠く可からざる所以なり本書は普く歐米諸大家の原本に基き傍ら著者の實驗說ヲ加へ學理的實地的ニ懸ケ離者ノ好伴侶たらんことを期したる者なれば醫家は勿論醫術開業受驗者諸君には學說臨床實驗共に緊要の良書なり

新宮京園伊地知英太郎
軍醫總監石黑忠悳先生題辭

袖珍醫學辭彙

第三版

最上洋本完一ページ二行
八十段詰紙數三百五十頁

減價金壹圓九拾錢
郵送稅八錢

A POCKET
MEDICAL LEXICON
IN
LATIN, ENGLISH,
& JAPANESE.

○往時羅甸文化の域に達し制度文物其宜きを得たるは世の洽く知る所而して醫學上に關する（解剖及藥劑疾病）名詞の如きは今尚ほ依然として其全體を存する者蓋し謂れなきに非るあり今や我邦文物燊然醫學の如きは殊に進歩の著きを見る隨て著書譯本の梓に上る者汗牛充棟曾ならず豈に亦た盛ならずや然りと雖其書は概ね孟浪杜撰にして各自意に任せて不良の譯語を下し其弊遂に後進の子弟をして五里霧中に彷徨せしむ豈に慨くに勝ゆ可けんや是れ醫語一定の說ある所以なり新宮伊地知兩先生の茲に感あり米國學士ダングリソン氏 Dictionary of Medical Science（醫學字書）トーマス氏 Medical Dictionary（醫學字書）及ウッド氏 A Pocket Medical Lexicon（袖珍醫學字書）に基き又たピースレー氏 The Book of perscriptions.（藥方書）獨國ヘンレー氏 Hond buch der systematischeu Anatomie des Menschen.（系統解剖書）ピンツ氏 Grundzuge der Arzeneitteleihre.（藥劑書）及ニーマエル氏 Lehr buch der specillen Pathologie nnd Tnerapie.（內科書）等より羅甸語に係る者を抄錄し就中譯語は先哲の定例に從ひ字數は殆と二萬に至り而して卷尾に度量表及署語を附す寔とに所謂集めて而して大成せる者に非すや庶幾くは大方の學者此書に由て其眞味ヲ解せは岐路に迷ふの歎なからん乎　○本書體裁見本は郵券二錢御送附あれは呈す

京都區徽院長江阪秀三郎君述
◎徽毒全書 紙數三百頁 正價金壹圓
精圖入 郵稅六錢

醫學士遠藤大太郎編
◎皮膚病纂篇 正價金壹圓廿錢
郵稅六錢

產婆師稻阪三吉
◎產婆心得 正價金三十錢

大學醫學部脚氣病院監督原田豊先生閲 金親雄編輯
◎座右須知 脚氣一名脚氣の心得 減價金二十錢
郵稅二錢

此書は本邦にて最も慴る可き所の脚氣の原因病徴及び發病に關係する諸件は勿論豫防攝生法等悉く漏さず婦女子に至る迄解し易き樣說明し脚氣病者或は衛生に注意する者は勿論各人必讀す可きの書にして以て未發に豫防し病者をして治癒を速のおらしむるに必要の書なり各地書林に於て御請求其禍ひをさけ賜ふ可し

◎忽布氏肖像 細網版 縱一尺三寸 正價廿錢
額面用 橫七寸 郵稅二錢

獨逸學自脩書類

文學博士 中村正直先生序 福地源一郎先生跋
文科大學教師獨逸博士グロート先生序
金子直行先生纂譯 專門學科諸先生校訂

Deutsch und Japanisches Wörterbuch

訂譯增補 獨和辭書 第四版

特別減價金貳圓（全國通運賃廿錢 小包郵便量目四百目）

洋裝堅固上等美製本 縱七寸五分橫五寸三分 壹ページ二列 七十四段詰 紙數七百餘ページ

本書出版以來日尙淺ふして初版既に賣切れ增刷の業に至り候處是又幾許ならずして數千部を賣盡して現今我邦獨和辭典中能く之に對等する書あきは普く諸君の知る所譯語の適切にして毫釐の欠なからしひ實に無比冠たると稱すべき者は誠之堂出版金子氏譯せる處の獨和辭書に若くものなしと世に賞評を博し實に弊舖の名譽不過之に依て猶一層訂正增補を加ふ校閲を嚴密ならしめ第四版を發行し用紙製本等に一層善美改良を爲し所謂金玉寶典完備の極點に達す

獨乙協會學校藏版 平塚定二郎校閲 石川源一郎解譯

◎平塚氏獨逸文法解全 正價金五十錢
獨國ラムレル氏著 醫學士馬嶋珪之助譯 郵稅四錢

◎獨和書簡文例 減價金四十錢
郵稅四錢

◎圖畫挿入 袖珍獨和辭書 賣價金六十錢 郵稅六錢

◎和文獨譯 獨逸作文獨案內 定價金卅六錢 郵稅四錢

◎獨逸語書取早學 レーマン氏校訂 醫學士馬嶋珪之助纂譯 減價金二十八錢 郵稅四錢

◎挿譯註釋 セーヘル 文典 一名實用獨案內 醫學士馬嶋珪之助譯 減價金六十五錢 郵稅十錢

◎カドリー 文典直譯 賣價金卅五錢 郵稅四錢

◎ウエルテル 萬國史直譯 太古史・中世史 各減價金卅二錢 郵稅四錢

◎エンゲリン第三讀本直譯 定價四十五錢 郵稅四錢

◎ヘステル第一讀本獨案內 定價廿五錢 郵稅四錢

◎ヘステル第二讀本獨案內 減價卅錢 郵郵四錢

◎ヘステル第四讀本直譯 減價各四十錢 郵稅四錢

◎ヘステル第三讀本直譯 賣價五十五錢 郵稅六錢

◎ボック氏第一讀本獨案內 賣價金三十五錢 郵稅四錢

◎仝第二讀本獨學意解 賣價金五十四錢 郵稅六錢

◎セーヘル氏獨逸文典 定價金四拾錢

◎カドリー文典 以下原書和製賣 賣價金四十錢 郵稅四錢

◎ウエルテル萬國史 定價金六拾五錢 郵稅十錢

◎ヘステル氏第一讀本 定價金拾二錢 郵稅二錢

◎ヘステル氏第二讀本 定價金拾五錢 郵稅二錢

◎ヘステル氏第三讀本 定價金三拾三錢 郵稅六錢

◎ボック氏第一讀本(寫眞石版) 定價金二拾五錢 郵稅四錢

◎ボック氏第二讀本(寫眞石版) 定價金三拾五錢 郵稅四錢

◎エンゲリン氏第一讀本 定價金三拾錢 郵稅四錢

◎エンゲリン氏第二讀本 定價金三拾五錢 郵稅四錢

◎通辨必携 **獨和會話案內** 附リ醫師會話
訂正增補　賣價金四十錢　郵稅金四錢

◎◎明治大成 **英和對譯字彙**　減價金三十錢

◎◎ **英語通辨會話案內** 英人タムソン先生校　同金十錢

◎◎ **英學作文獨案內** 同先生校　同金廿錢

◎◎ **ニユナシヨナルリーダ** 第一　同金六錢
◎◎ **ピ子オ氏文典** 第二　同金十二錢

◎◎ **ピ子オ文獨學**　同金十錢

◎◎ **クエツケンボス文典**　同金六錢

◎◎スイントン第一リーダ **獨案內**　同金十錢

◎◎ **ユニオン**第一リーダ **獨學**　同金十錢

田口卯吉君題　竹田　等君序　松南友次郎君著
◎容易應用 **簿記新法** 實業家及諸學校數科用書　正價金卅五錢　郵稅六錢

◎ウヰルソン氏 **幾何學解式**　賣價金四十錢

英國認師バーリングトン先生著　法學士山田喜之助先生閱
法學博士バリスタル總檀陳重先生序　法學士松井慶四郎先生譯

◎ **英國賣買法**　賣價金廿五錢

法學士　山田喜之助君閱　田中通三君編

◎ **日本會社指針** 附會社條例及會社一覽　減價　金廿錢

總て會社に關る要件は洩さず能是を實用せば獨り其人の利たる而已ならず廣く國家の裨益たる可し　紙數三百頁　郵稅六錢

英國ろすこー著　日本醫學士馬嶋珪之助譯
獨國しよるれんめる著

◎最新なる學說に基ける **普通化學**　無機篇　正價金壹圓廿錢
有機篇　同金九十錢
全二冊　近刊

洋裝堅牢美製　精圖挿入

第一高等中學校歷史受持　前田儀作君編輯
教諭文學士長澤市藏君序

◎必携受驗者 **萬國歷史** 試驗問題 **答案**　全一冊　減價金拾五錢

本書ハ高等尋常中學校、特別認可學校、師範學校、海、陸軍、農、商業學校及其他各種學校の入學試驗者及平常受驗者の記臆に便ならしめんか爲諸學校にて示せる歷史試驗の問題大小五百餘を設け其程度に應したる正確詳細なる答案を附記したる縱橫六大洲、上下二千年間の政治、戰爭、宗教、教育、文學、美術商工業等一目瞭然眞箇受驗者授業者必讀の書なり

前田安治君著

◎萬國地理試驗問題答案　問題大小四百餘項　減價金十五錢

本書ハ歐米最近出版の諸書を參觀著作せる者にして現今中學校師範學校等の地理書世に少からずと雖とも本書の如く其粹を拔き其の要を攬り問答體に編纂して受驗者授業者に便利なる者ハ一も有るなし此書ハ一々地理と歷史の關係をも示したれば啻に山川都會氣候物産を知得するのみならず實に世界古今の活劇をも一目の下に從覽せしむるの思ひあり

◎天然人造道理圖解　半紙本全九冊壹篇三冊　減價金卅錢宛

◎大東史略　半紙本五冊　減價金五十錢

◎官立私立東京諸學校一覽　附入學試驗科目及校則　減價金廿錢　減稅四錢

◎代數學問題　二冊　減價金廿錢

湯本福住正兄增補　間宮永好編

◎增補校正箱根七湯志　一名温泉獨案內密書數葉入　減價金十五錢

◎日用交通遞信用文　半紙形美本　減價金三十錢

◎公私必要文章　減價金三拾錢

◎小學作文尺牘早引　減價金廿錢

◎漢語書狀案文　減價金廿錢

黑川眞頼大人閲　岡野伊平大人編

◎中小學用女子文例　半紙本二冊　減價廿五錢　郵稅六錢

◎開化年中行事小學女用文章　半紙美本　減價金四拾錢

◎卷菱澤書社會改良女子手習の文　減價金拾五錢

松浦琴鶴先生著述女子教育新論　減價金貳拾錢

◎家相傳秘集　半紙本二冊　同廿五錢

◎方鑒秘傳集　同二冊　同斷

◎方位家相早操圖解　全一冊　減價金廿錢

◎當世番匠雛形　同金十五錢

◎方位吉凶明治九星早見　代十錢

內閣官報局長高橋健三君序

工學士稻垣銓平君閲　蘆田束雄君編

◎新撰速成製法秘訣　增補二版　正價金十五錢　郵稅四錢

本書出版以來大に世に行はれ僅に數月を經すして數萬部を賣盡し暫く愛讀諸君の貴需を謝絶候處今般更に石油製造●諸染色●各種洋酒●石鹼●白ボク●光澤糊●早印刷器●各色インキ●ワニス●ボッタース●肝油●早附木●香水香油●化粧水●菓子パン●手輕西洋料理●諸鑵詰●ゴム●菓物野菜の貯蓄●諸藥劑其他歐米大家の秘密

法を採て增補し合て凡そ二百種の製法を悉切に說明し何人にも容易に速成を得る至極經濟の要書にして今回第二版落成仕用紙製本等一層改良し殆と舊本に二倍し代價は特別御禮の爲め從前の正價にて發賣仕候間陸續御購求あらんことを乞

赤司新三郎君著

◎新商人

洋裝美本　賣價金拾五錢
石版畫數葉入　郵稅六錢

富い國の本なり富を致す商に在ㇾ今や日本商業社會の腐敗日久し之を振ひ之を起さずんば富强の實文明の本吾れ其得る所以を知らさるなり春煙先生此に見る所あㇾ新商人と著さる事を小說ょ托して而して旨を高遠に寓す篇中の才子西洋に航して實驗と學理とを以て信を外人に取り姦商を挫き點買を挑し貿易上の惡習を改良して我商業社會の陷穽を洗滌し以て我邦をして歐米と富强を爭ふに至らしむ其間賢婦の難厄才女の困頓を插敘點綴し流麗の筆快利の論を以て人を知らす識らすの中に喩す苟も心を商業に委ぬる者此書を讀んで百年の昏夢を破り奮發興起する所なかる可らさるなり嗚呼日本商業社會の腐敗日久し讀めや新商人起てや日本の商業諸君

ヒーキスピヤー著　赤司新三郎君譯

◎西洋娘節用

洋本書入　正價金十錢
郵稅四錢

◎四天先生今村理吐士　政事家の狼狽

正價金十錢
郵稅四錢

右二書は西村天囚居士か流麗の筆を以て現社會を痛論せし快書なり

長三州先生習字帖

總理大臣伯爵伊藤博文公題字　從五位長三州先生書

◎行書　書簡文

大本　正價金廿五錢
郵稅四錢

故大政大臣正一位公爵三條實美公題字　從五位長三州先生書

◎眞書千字文

大本　正價金三十五錢
郵稅四錢

宮內大臣子爵土方久之公題字　從五位長三州先生書

◎行書天地帖

大本　正價金卅錢
郵稅四錢

大清國李鴻章先生題字　從五位長三州先生書

◎韻華帖

大本　正價金卅錢
郵稅四錢

一冊八十ページ　定價金十錢郵稅二錢宛
每月一日十五日發兌全三十冊完結

中等教育 文科講習會

講義科目及講師人名

國語漢文科
- 日本文典　畠山健君
- 十六夜日記　今泉定介君
- 古今集　芝山信君
- 孟子　中根淑君

歷史科
- 日本歷史　今泉定介君
- 朝鮮歷史　深井鑑一郎君
- 支那歷史　山田準君
- 萬國歷史　中根淑君

中等教育文科講習會は國語漢文及歷史等を兼修する者及和漢文科の試驗に應せんと欲する者には無二の良師友なり◉世に和漢文をまで兼且講師諸君い專ら中等教育に經驗ある其人を得たるをや嗚呼此雜誌にして一たび出は文學上一の美觀を呈し世を益するや蓋し尠少あらざる可し

注意!!

弊舗書籍營業に從事する久し以て日に月に盛大に及ぼせり是れ實に四方君子の愛顧に因る眞に感銘に堪へさるなり就ては大方愛顧の恩惠に報せんか爲め以後一層奮勵し書籍價格を廉にし古本買入等は最も高直に申受且圖書の彫刻製本出版等は極めて入念に調進し篤く君子の御便益を計り廣く御需用に應す可く候間遠近多少を問はず續々御注文あらんことを奉懇望候也

◉御注文の節は總て前金御送附被下度御送金無之御注文は一切御送本不仕候且亦直段御問合せは必ず往復葉書或は返信用郵券御封入可被下候且御住所御姓名の儀は楷書を以て明瞭に御認被下度候

◉御送金は郵便爲替銀行爲換又は通運早達便其他御便利を以て御送金被下度候郵便小爲換券には其の証書面拂渡局名の左側へ「今川橋」の三字受取氏名の下段には「東京神田區西福田町壹番地伊藤岩治郎」と必ず御記入被成下度候且郵便切手を以

て代用の節ハ必ず一割増にて御送附被成下度候（御封入の際切手密着せざる様御注意を乞）

◉運賃郵税等ハ書籍代價の外に申受候○郵税の儀ハ冊目三十匁毎に貳錢宛貼用仕候

◉荷造の儀ハ精々注意堅固に可仕候得共萬一途中破損等の節ハ積問屋より辨償致し候外弊店にて負擔不仕且運搬中火災難船盗難其他天災より生したる損害も同斷保険附の外引請不申○爲替入書狀にして徃々不着の者有之可成書留便にて御送金被下度然らさる者ハ小店に於御引請不申候又書籍並郵便送之分ハ途中紛失相成も取調方無之候間書留便の外ハ是亦御引請不申候間前以て御承知可被下候依て確收を要せらるゝ方ハ郵税の外別に書留料六錢御送附可被下候

◉此の表中に記載ある代價ハ即ち賣價にして割引無之者に付御承知置奉願候

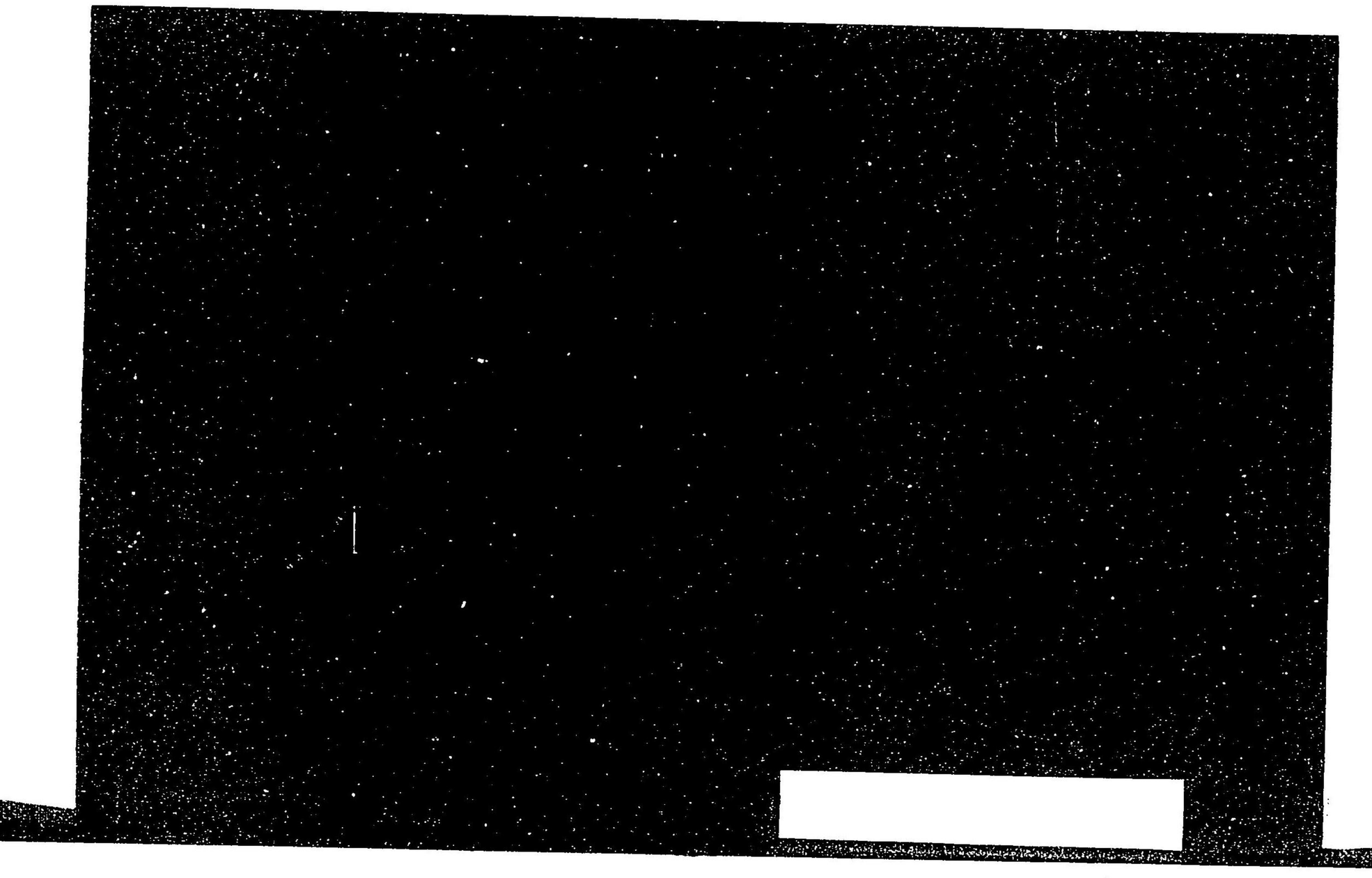
◉金高壹圓以下の御注文品にハ別段請取書及送本案内狀等不仕候○右之外何方出版何種の書籍に不拘らず御注文の節ハ廉價に迅速御送本可仕候猶此の目錄外數書發兌亦當時着手中の各種書籍陸續出版可仕候

發兌元　誠之堂
東京市神田區鍋田町一番地（今川橋）
伊藤岩治郎

明治
廿七年九月十日
印刷同九月廿五日發
行神田區西福田町一番地
發行者伊藤岩治郎
印刷者松本
義弘

定價拾錢

印刷者　東京京橋區弓町十三番地
松本義弘



特46
863

軽便早印刷法

国立国会図書館

072026-000-9

特46-863

軽便早印刷法（容易速成弐銭七厘）

鈴木　東奥／著

M27

CEE-0029